

2025 年度 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、2025 年 7 月 31 日に「2024 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2025 年 7 月 31 日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 木村 英雄（名古屋市中村区歯科医師会 会長）
2. 田中 裕貴（株式会社さんぽう 企画営業第 2 グループリーダー）
3. 谷口 沙耶香（歯科衛生学科 同窓会会長）欠席
4. 中尾 聡（学校法人 大橋学園 副理事長）
5. 服部 正巳（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校長）

オブザーバー

加藤 直美（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 学科長）
渡邊 美香（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長）
井上 玲子（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長）
溝田 智也（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長）
櫻井 燎（名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長代理）

以上 10 名

2. 2024 年度 自己評価（2025 年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：ほぼ適切である。 課題：現場ニーズ教育内容をマッチングさせることが課題。 改善策：教育現場の設備、勤務体制の見直し。
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切である。 課題：学生や教職員の意見吸い上げ体制不足、職員の退職に伴う計画遅延。 改善策：人事制度の透明化、業務のマニュアル化。
(3) 教育活動	評価：ほぼ適切である。 課題：判定基準の明確化。 改善策：検討チームの発足。
(4) 学修成果	評価：ほぼ適切である。 課題：学生の学力とモチベーション向上方法の検討。 改善策：同窓会の活用、国家試験対策の強化。
(5) 学生支援	評価：ほぼ適切である。 課題：学生指導の時間不足。 改善策：教職員以外の相談窓口の設置、カウンセラーの委託検討。
(6) 教育環境	評価：ほぼ適切である。 課題：防災に対しての意識・対策不足。 改善策：複数回の避難訓練実施。
(7) 学生の受け入れ 募集	評価：ほぼ適切である。 課題：入力時の学力レベル設定 改善策：入学試験での学力試験実施検討。
(8) 財務	評価：ほぼ適切である。 改善策：特記事項なし。
(9) 法令等の遵守	評価：ほぼ適切である。 課題：特記事項なし。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：ほぼ適切である。 課題：特記事項なし。

3. 2023 年度 学校関係者評価（2024 年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方	ほぼ適切である。

針等が策定されているか」	
（４）学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
（５）学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
（６）教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」	ほぼ適切である。
（７）学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	ほぼ適切である。
（８）財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	ほぼ適切である。
（９）法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	ほぼ適切である。
（１０）社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

４．学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	その項目もほぼ適切で健全な運営をしている。 生徒や学生の変化を踏まえ、職業理解促進と選ばれる学校になることを目標に学力レベルの向上とともに歯科衛生士の魅力を発信していく学校を目指していく。